

運行管理者（貨物）問題集 - 実務上の知識及び能力

資格ブートキャンプ用の学習PDFです。対象区分：共通 + 貨物。正解と解説は各問題の末尾に掲載しています。収録数：53問。

Q1 (ID 571) [共通] ○ ×

次の記述は正しいか。共通の基本確認として、実務では、天候、道路形状、歩行者の動き、車両特性を踏まえた危険予測が重要である。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

実務上の知識及び能力の基本確認では、危険予測を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。実務では、天候、道路形状、歩行者の動き、車両特性を踏まえた危険予測が重要である。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q2 (ID 572) [貨物] ○ ×

次の記述は正しいか。貨物の基本確認として、ヒヤリハットについて、ヒヤリハットは報告者を処分するために集める。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

実務上の知識及び能力の基本確認では、ヒヤリハットを単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。ヒヤリハット情報は責任追及ではなく、再発防止教育と運行計画改善に活用する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q3 (ID 574) [共通] ○ ×

次の記述は正しいか。共通の基本確認として、事故発生時対応について、ヒヤリハットは報告者を処分するために集める。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

実務上の知識及び能力の基本確認では、事故発生時対応を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。事故発生時は負傷者救護、危険防止、警察等への連絡、会社報告を落ち着いて行う。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q4 (ID 575) [貨物] ○ ×

次の記述は正しいか。貨物の基本確認として、荷役時は転落、挟まれ、フォークリフト接触、荷崩れに注意し、作業手順を守る。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

実務上の知識及び能力の基本確認では、荷役時の安全を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。荷役時は転落、挟まれ、フォークリフト接触、荷崩れに注意し、作業手順を守る。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q5 (ID 577) [共通] ○ ×

次の記述は正しいか。共通の基本確認として、デジタコ等の記録は速度、休憩、運転傾向を把握し、指導に活用できる。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

実務上の知識及び能力の基本確認では、デジタコ活用を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。デジタコ等の記録は速度、休憩、運転傾向を把握し、指導に活用できる。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q6 (ID 579) [共通] ○ ×

次の記述は正しいか。共通の基本確認として、運転者が異常を感じたときに迷わず連絡できる緊急連絡体制を整備する。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

実務上の知識及び能力の基本確認では、緊急連絡体制を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者が異常を感じたときに迷わず連絡できる緊急連絡体制を整備する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q7 (ID 580) [貨物] ○ ×

次の記述は正しいか。貨物の基本確認として、省燃費運転について、ヒヤリハットは報告者を処分するために集める。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

実務上の知識及び能力の基本確認では、省燃費運転を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。急加速・急減速を避ける運転は、省燃費だけでなく事故防止と乗り心地向上にもつながる。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q8 (ID 582) [共通] ○ ×

次の記述は正しいか。共通の記録管理として、ヒヤリハットについて、悪天候時も定時運行を安全より優先する。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

実務上の知識及び能力の記録管理では、ヒヤリハットを単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。ヒヤリハット情報は責任追及ではなく、再発防止教育と運行計画改善に活用する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q9 (ID 583) [貨物] ○ ×

次の記述は正しいか。貨物の記録管理として、大雨、雪、強風などでは、速度低下、経路変更、運行中止を含めて安全側に判断する。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

実務上の知識及び能力の記録管理では、悪天候時の判断を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。大雨、雪、強風などでは、速度低下、経路変更、運行中止を含めて安全側に判断する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q10 (ID 585) [貨物] ○ ×

次の記述は正しいか。貨物の記録管理として、荷役時は転落、挟まれ、フォークリフト接触、荷崩れに注意し、作業手順を守る。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

実務上の知識及び能力の記録管理では、荷役時の安全を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。荷役時は転落、挟まれ、フォークリフト接触、荷崩れに注意し、作業手順を守る。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q11 (ID 587) [共通] ○ ×

次の記述は正しいか。共通の記録管理として、デジタコ等の記録は速度、休憩、運転傾向を把握し、指導に活用できる。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

実務上の知識及び能力の記録管理では、デジタコ活用を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。デジタコ等の記録は速度、休憩、運転傾向を把握し、指導に活用できる。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q12 (ID 588) [貨物] ○ ×

次の記述は正しいか。貨物の記録管理として、運行前ミーティングについて、悪天候時も定時運行を安全より優先する。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

実務上の知識及び能力の記録管理では、運行前ミーティングを単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運行前ミーティングでは道路規制、天候、事故情報、注意地点を共有する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q13 (ID 590) [共通] ○ ×

次の記述は正しいか。共通の記録管理として、省燃費運転について、悪天候時も定時運行を安全より優先する。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

実務上の知識及び能力の記録管理では、省燃費運転を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。急加速・急減速を避ける運転は、省燃費だけでなく事故防止と乗り心地向上にもつながる。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q14 (ID 591) [貨物] ○ ×

次の記述は正しいか。貨物の事故防止として、実務では、天候、道路形状、歩行者の動き、車両特性を踏まえた危険予測が重要である。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

実務上の知識及び能力の事故防止では、危険予測を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。実務では、天候、道路形状、歩行者の動き、車両特性を踏まえた危険予測が重要である。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q15 (ID 592) [共通] ○ ×

次の記述は正しいか。共通の事故防止として、ヒヤリハットについて、事故時は会社報告を優先し、負傷者救護は後でよい。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

実務上の知識及び能力の事故防止では、ヒヤリハットを単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。ヒヤリハット情報は責任追及ではなく、再発防止教育と運行計画改善に活用する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q16 (ID 593) [貨物] ○ ×

次の記述は正しいか。貨物の事故防止として、大雨、雪、強風などでは、速度低下、経路変更、運行中止を含めて安全側に判断する。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

実務上の知識及び能力の事故防止では、悪天候時の判断を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。大雨、雪、強風などでは、速度低下、経路変更、運行中止を含めて安全側に判断する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q17 (ID 595) [共通] ○ ×

次の記述は正しいか。共通の事故防止として、荷役時は転落、挟まれ、フォークリフト接触、荷崩れに注意し、作業手順を守る。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

実務上の知識及び能力の事故防止では、荷役時の安全を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。荷役時は転落、挟まれ、フォークリフト接触、荷崩れに注意し、作業手順を守る。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q18 (ID 596) [貨物] ○ ×

次の記述は正しいか。貨物の事故防止として、乗客対応について、事故時は会社報告を優先し、負傷者救護は後でよい。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

実務上の知識及び能力の事故防止では、乗客対応を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。旅客運送では急発進・急停止を避け、高齢者や障害者などへの配慮を運転操作に反映する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q19 (ID 598) [共通] ○ ×

次の記述は正しいか。共通の事故防止として、運行前ミーティングについて、事故時は会社報告を優先し、負傷者救護は後でよい。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

実務上の知識及び能力の事故防止では、運行前ミーティングを単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運行前ミーティングでは道路規制、天候、事故情報、注意地点を共有する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q20 (ID 600) [共通] ○ ×

次の記述は正しいか。共通の事故防止として、省燃費運転について、事故時は会社報告を優先し、負傷者救護は後でよい。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

実務上の知識及び能力の事故防止では、省燃費運転を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。急加速・急減速を避ける運転は、省燃費だけでなく事故防止と乗り心地向上にもつながる。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q21 (ID 601) [貨物] ○ ×

次の記述は正しいか。貨物の監査対策として、実務では、天候、道路形状、歩行者の動き、車両特性を踏まえた危険予測が重要である。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

実務上の知識及び能力の監査対策では、危険予測を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。実務では、天候、道路形状、歩行者の動き、車両特性を踏まえた危険予測が重要である。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q22 (ID 603) [共通] 四択

共通の監査対策に関する記述として、最も適切なものはどれか。(悪天候時の判断)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 異常があっても予定を優先して運行する。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 大雨、雪、強風などでは、速度低下、経路変更、運行中止を含めて安全側に判断する。

正解：D

解説：

実務上の知識及び能力の監査対策では、悪天候時の判断を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。大雨、雪、強風などでは、速度低下、経路変更、運行中止を含めて安全側に判断する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q23 (ID 604) [貨物] 四択

貨物の監査対策に関する記述として、最も適切なものはどれか。(事故発生時対応)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 事故発生時は負傷者救護、危険防止、警察等への連絡、会社報告を落ち着いて行う。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。

正解：B

解説：

実務上の知識及び能力の監査対策では、事故発生時対応を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。事故発生時は負傷者救護、危険防止、警察等への連絡、会社報告を落ち着いて行う。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q24 (ID 606) [貨物] 四択

貨物の監査対策に関する記述として、最も適切なものはどれか。(乗客対応)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 旅客運送では急発進・急停止を避け、高齢者や障害者などへの配慮を運転操作に反映する。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。

正解：B

解説：

実務上の知識及び能力の監査対策では、乗客対応を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。旅客運送では急発進・急停止を避け、高齢者や障害者などへの配慮を運転操作に反映する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q25 (ID 608) [共通] 四択

共通の監査対策に関する記述として、最も適切なものはどれか。(運行前ミーティング)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 運行前ミーティングでは道路規制、天候、事故情報、注意地点を共有する。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。

正解：B

解説：

実務上の知識及び能力の監査対策では、運行前ミーティングを単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運行前ミーティングでは道路規制、天候、事故情報、注意地点を共有する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q26 (ID 609) [貨物] 四択

貨物の監査対策に関する記述として、最も適切なものはどれか。(緊急連絡体制)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 運転者が異常を感じたときに迷わず連絡できる緊急連絡体制を整備する。

正解：D

解説：

実務上の知識及び能力の監査対策では、緊急連絡体制を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者が異常を感じたときに迷わず連絡できる緊急連絡体制を整備する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q27 (ID 611) [共通] 四択

共通の乗務前確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(危険予測)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 実務では、天候、道路形状、歩行者の動き、車両特性を踏まえた危険予測が重要である。

正解：D

解説：

実務上の知識及び能力の乗務前確認では、危険予測を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。実務では、天候、道路形状、歩行者の動き、車両特性を踏まえた危険予測が重要である。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q28 (ID 612) [貨物] 四択

貨物の乗務前確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(ヒヤリハット)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. ヒヤリハット情報は責任追及ではなく、再発防止教育と運行計画改善に活用する。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 記録は口頭確認だけで足りる。

正解：B

解説：

実務上の知識及び能力の乗務前確認では、ヒヤリハットを単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。ヒヤリハット情報は責任追及ではなく、再発防止教育と運行計画改善に活用する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q29 (ID 613) [共通] 四択

共通の乗務前確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(悪天候時の判断)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 異常があっても予定を優先して運行する。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 大雨、雪、強風などでは、速度低下、経路変更、運行中止を含めて安全側に判断する。

正解：D

解説：

実務上の知識及び能力の乗務前確認では、悪天候時の判断を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。大雨、雪、強風などでは、速度低下、経路変更、運行中止を含めて安全側に判断する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q30 (ID 614) [貨物] 四択

貨物の乗務前確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(事故発生時対応)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 事故発生時は負傷者救護、危険防止、警察等への連絡、会社報告を落ち着いて行う。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。

正解：B

解説：

実務上の知識及び能力の乗務前確認では、事故発生時対応を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。事故発生時は負傷者救護、危険防止、警察等への連絡、会社報告を落ち着いて行う。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q31 (ID 616) [共通] 四択

共通の乗務前確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(乗客対応)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 旅客運送では急発進・急停止を避け、高齢者や障害者などへの配慮を運転操作に反映する。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。

正解：B

解説：

実務上の知識及び能力の乗務前確認では、乗客対応を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。旅客運送では急発進・急停止を避け、高齢者や障害者などへの配慮を運転操作に反映する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q32 (ID 617) [貨物] 四択

貨物の乗務前確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(デジタコ活用)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. デジタコ等の記録は速度、休憩、運転傾向を把握し、指導に活用できる。

正解：D

解説：

実務上の知識及び能力の乗務前確認では、デジタコ活用を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。デジタコ等の記録は速度、休憩、運転傾向を把握し、指導に活用できる。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q33 (ID 619) [共通] 四択

共通の乗務前確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(緊急連絡体制)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 運転者が異常を感じたときに迷わず連絡できる緊急連絡体制を整備する。

正解：D

解説：

実務上の知識及び能力の乗務前確認では、緊急連絡体制を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者が異常を感じたときに迷わず連絡できる緊急連絡体制を整備する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q34 (ID 621) [共通] 四択

共通の乗務後確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(危険予測)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 実務では、天候、道路形状、歩行者の動き、車両特性を踏まえた危険予測が重要である。

正解：D

解説：

実務上の知識及び能力の乗務後確認では、危険予測を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。実務では、天候、道路形状、歩行者の動き、車両特性を踏まえた危険予測が重要である。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q35 (ID 622) [貨物] 四択

貨物の乗務後確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(ヒヤリハット)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. ヒヤリハット情報は責任追及ではなく、再発防止教育と運行計画改善に活用する。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 記録は口頭確認だけで足りる。

正解：B

解説：

実務上の知識及び能力の乗務後確認では、ヒヤリハットを単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。ヒヤリハット情報は責任追及ではなく、再発防止教育と運行計画改善に活用する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q36 (ID 624) [共通] 四択

共通の乗務後確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(事故発生時対応)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 事故発生時は負傷者救護、危険防止、警察等への連絡、会社報告を落ち着いて行う。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。

正解：B

解説：

実務上の知識及び能力の乗務後確認では、事故発生時対応を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。事故発生時は負傷者救護、危険防止、警察等への連絡、会社報告を落ち着いて行う。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q37 (ID 625) [貨物] 四択

貨物の乗務後確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(荷役時の安全)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 記録は口頭確認だけで足りる。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 荷役時は転落、挟まれ、フォークリフト接触、荷崩れに注意し、作業手順を守る。

正解：D

解説：

実務上の知識及び能力の乗務後確認では、荷役時の安全を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。荷役時は転落、挟まれ、フォークリフト接触、荷崩れに注意し、作業手順を守る。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q38 (ID 627) [貨物] 四択

貨物の乗務後確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(デジタコ活用)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. デジタコ等の記録は速度、休憩、運転傾向を把握し、指導に活用できる。

正解：D

解説：

実務上の知識及び能力の乗務後確認では、デジタコ活用を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。デジタコ等の記録は速度、休憩、運転傾向を把握し、指導に活用できる。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q39 (ID 629) [共通] 四択

共通の乗務後確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(緊急連絡体制)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 運転者が異常を感じたときに迷わず連絡できる緊急連絡体制を整備する。

正解：D

解説：

実務上の知識及び能力の乗務後確認では、緊急連絡体制を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運転者が異常を感じたときに迷わず連絡できる緊急連絡体制を整備する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q40 (ID 630) [貨物] 四択

貨物の乗務後確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(省燃費運転)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 急加速・急減速を避ける運転は、省燃費だけでなく事故防止と乗り心地向上にもつながる。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. 異常があっても予定を優先して運行する。

正解：B

解説：

実務上の知識及び能力の乗務後確認では、省燃費運転を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。急加速・急減速を避ける運転は、省燃費だけでなく事故防止と乗り心地向上にもつながる。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q41 (ID 632) [共通] 四択

共通の教育指導に関する記述として、最も適切なものはどれか。(ヒヤリハット)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. ヒヤリハット情報は責任追及ではなく、再発防止教育と運行計画改善に活用する。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 記録は口頭確認だけで足りる。

正解：B

解説：

実務上の知識及び能力の教育指導では、ヒヤリハットを単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。ヒヤリハット情報は責任追及ではなく、再発防止教育と運行計画改善に活用する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q42 (ID 633) [貨物] 四択

貨物の教育指導に関する記述として、最も適切なものはどれか。(悪天候時の判断)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 異常があっても予定を優先して運行する。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 大雨、雪、強風などでは、速度低下、経路変更、運行中止を含めて安全側に判断する。

正解：D

解説：

実務上の知識及び能力の教育指導では、悪天候時の判断を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。大雨、雪、強風などでは、速度低下、経路変更、運行中止を含めて安全側に判断する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q43 (ID 634) [共通] 四択

共通の教育指導に関する記述として、最も適切なものはどれか。(事故発生時対応)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 事故発生時は負傷者救護、危険防止、警察等への連絡、会社報告を落ち着いて行う。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。

正解：B

解説：

実務上の知識及び能力の教育指導では、事故発生時対応を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。事故発生時は負傷者救護、危険防止、警察等への連絡、会社報告を落ち着いて行う。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q44 (ID 635) [貨物] 四択

貨物の教育指導に関する記述として、最も適切なものはどれか。(荷役時の安全)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 記録は口頭確認だけで足りる。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 荷役時は転落、挟まれ、フォークリフト接触、荷崩れに注意し、作業手順を守る。

正解：D

解説：

実務上の知識及び能力の教育指導では、荷役時の安全を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。荷役時は転落、挟まれ、フォークリフト接触、荷崩れに注意し、作業手順を守る。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q45 (ID 637) [共通] 四択

共通の教育指導に関する記述として、最も適切なものはどれか。(デジタコ活用)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. デジタコ等の記録は速度、休憩、運転傾向を把握し、指導に活用できる。

正解：D

解説：

実務上の知識及び能力の教育指導では、デジタコ活用を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。デジタコ等の記録は速度、休憩、運転傾向を把握し、指導に活用できる。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q46 (ID 638) [貨物] 四択

貨物の教育指導に関する記述として、最も適切なものはどれか。(運行前ミーティング)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 運行前ミーティングでは道路規制、天候、事故情報、注意地点を共有する。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。

正解：B

解説：

実務上の知識及び能力の教育指導では、運行前ミーティングを単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運行前ミーティングでは道路規制、天候、事故情報、注意地点を共有する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q47 (ID 640) [共通] 四択

共通の教育指導に関する記述として、最も適切なものはどれか。(省燃費運転)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 急加速・急減速を避ける運転は、省燃費だけでなく事故防止と乗り心地向上にもつながる。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. 異常があっても予定を優先して運行する。

正解：B

解説：

実務上の知識及び能力の教育指導では、省燃費運転を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。急加速・急減速を避ける運転は、省燃費だけでなく事故防止と乗り心地向上にもつながる。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q48 (ID 642) [共通] 四択

共通の異常時対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(ヒヤリハット)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. ヒヤリハット情報は責任追及ではなく、再発防止教育と運行計画改善に活用する。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 記録は口頭確認だけで足りる。

正解：B

解説：

実務上の知識及び能力の異常時対応では、ヒヤリハットを単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。ヒヤリハット情報は責任追及ではなく、再発防止教育と運行計画改善に活用する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q49 (ID 643) [貨物] 四択

貨物の異常時対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(悪天候時の判断)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 異常があっても予定を優先して運行する。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 大雨、雪、強風などでは、速度低下、経路変更、運行中止を含めて安全側に判断する。

正解：D

解説：

実務上の知識及び能力の異常時対応では、悪天候時の判断を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。大雨、雪、強風などでは、速度低下、経路変更、運行中止を含めて安全側に判断する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q50 (ID 645) [共通] 四択

共通の異常時対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(荷役時の安全)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 記録は口頭確認だけで足りる。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 荷役時は転落、挟まれ、フォークリフト接触、荷崩れに注意し、作業手順を守る。

正解：D

解説：

実務上の知識及び能力の異常時対応では、荷役時の安全を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。荷役時は転落、挟まれ、フォークリフト接触、荷崩れに注意し、作業手順を守る。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q51 (ID 646) [貨物] 四択

貨物の異常時対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(乗客対応)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 旅客運送では急発進・急停止を避け、高齢者や障害者などへの配慮を運転操作に反映する。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。

正解：B

解説：

実務上の知識及び能力の異常時対応では、乗客対応を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。旅客運送では急発進・急停止を避け、高齢者や障害者などへの配慮を運転操作に反映する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q52 (ID 648) [貨物] 四択

貨物の異常時対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(運行前ミーティング)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 運行前ミーティングでは道路規制、天候、事故情報、注意地点を共有する。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。

正解：B

解説：

実務上の知識及び能力の異常時対応では、運行前ミーティングを単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運行前ミーティングでは道路規制、天候、事故情報、注意地点を共有する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q53 (ID 650) [共通] 四択

共通の異常時対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(省燃費運転)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 急加速・急減速を避ける運転は、省燃費だけでなく事故防止と乗り心地向上にもつながる。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. 異常があっても予定を優先して運行する。

正解：B

解説：

実務上の知識及び能力の異常時対応では、省燃費運転を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。急加速・急減速を避ける運転は、省燃費だけでなく事故防止と乗り心地向上にもつながる。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。